

査するも異常はない。30 年位前、過敏性腸症候群、十二指腸潰瘍の既往歴あり。

(現 症) ◎眼科所見：両眼、外眼部・前眼部・中間透光体・眼底には異常を認めない。

◎全身所見：中肉中背で虚実中間、眼痛のためか少し疲労気味、眼の奥が痛いとき涙がよく出る、頭痛(-)、めまい(-)、口渇(+)、多飲(-)、乏尿(-)で気持ち良く出る、夜間尿2～3回、肩・頸のこり(+)、胃の不快症状(胸焼け・痞え)(+)、不眠(-)、夢(-)、脈弦、舌微白苔(+)、腹力軟弱、腹直筋緊張あり。

(経 過) ◎特に処方目標がつかみきれず、「眼の奥が痛い」という主訴を意識して川芎茶調散を処方したところ、1 ヶ月位で痛みの8割位は取れた。1 年位続服して痛みは全く消失したため、2～3 ヶ月休薬したが再燃、同処方を再度続服していると痛みが消失、その後数ヶ月続服して廃薬となった。

(ま と め) ◎三叉神経痛や上眼窩神経痛を訴える患者は多いが、頻用する方剤も多い。著者は処方目標が明確にならないとき、川芎茶調散を用いることにしている。

## 眼痛(上眼窩神経痛)の漢方治療について

①消炎鎮痛剤との併用は、漢方薬の効果が不明瞭となるため一切行なわない。当然点眼処方も必要ない。

②望診・聞診・問診・切診により正しく処方すれば、効果発現は案外早い。2～3 週で眼痛に対する効果が得られる。

③長期既往歴のある患者の場合は治療日数を要することもある。

④眼痛を訴える患者に重篤な眼病(緑内障、ブドウ膜炎等)がないことを確認する。

⑤ 痛みに対する漢方薬の効果は、「服用して効いた」感があり、西洋医学的薬理作用の解明が待たれるところであるが、漢方方剤の使用目標である自覚症状の改善とともに鎮痛効果が得られるものである。そのため痛みの消失とともに体調も良くなり、その後半年～1年と漢方薬の続服を希望する患者が多い。

### 上眼窩神経痛、三叉神経痛に対する常用方剤

柴胡剤	大柴胡湯 小柴胡湯 柴胡桂枝湯 柴胡桂枝乾姜湯 柴胡清肝湯
駆瘀血剤	桃核承気湯 桂枝茯苓丸 当帰芍薬散
利水剤	五苓散 越婢加朮湯 半夏白朮天麻湯
清熱剤	黄連解毒湯 瀉心湯類
補剤	人参湯 補中益気湯
補腎剤	八味丸
解表剤	葛根加朮附湯 桂枝加朮附湯 葛根湯
その他	清上蠲痛湯 川芎茶調散 選奇湯